

7月 全校朝会講話（要約）

今月は授業時間の確保のために31日（金）まで授業を行うことにしました。エアコンがあるとはいえ、暑い中での学校生活が続きます。気持ちと体を整えて、しっかり乗り切ってほしいと思います。

今回話すことは「フェニックスマッチ」についてです。

中体連の大会に代わり、フェニックスマッチが行われます。3年生にとっては最後の試合となります。

3年生の皆さんの今後の人生に生かすために、お願いしたいことは2つです。

一つ目は、「試合が終わる最後まで諦めないで頑張してほしい」ということです。

この気持ちで戦えば、1セット目を取られても、次のセットにつながりますし、試合を落としても、次の試合につながります。

試合が終わって負けたとしても、その後の人生につながります。

やすやすとあきらめる試合だけはしないようにしてください。

二つ目は、「マナーはどのチームにも負けないようにしてほしい」ということです。

試合会場にはお互いのチームだけではなく、役員の先生や保護者の人たちもいます。そういう周りの人から応援されるチームになってください。競ったときにはそれらの人の声援も味方になるはずですよ。

「最後まであきらめない」「周りから応援される人になってほしい」この2つは生き方にも役に立つはずですよ。

フェニックスマッチに関連して、部活動の締めくくりについて話をします。

部活動はかならずどこかで終わりを迎えます。例年だと全国大会で優勝する人以外はどこかで負けて終わりになります。

私の記憶の中で、最高の終わり方をしたと思っているのが、今から11年前の夏の高校野球・甲子園大会決勝で敗れた日本文理高校だと思っています。日本文理が愛知県の中京大中京高校に9-10で負けはしたものの、9回2アウトランナー無しから、諦めずに5点を返したことで、今でも名勝負と言われています。わたしは最高の負け方だと思っています。

あの時、最後まで諦めずに頑張っている日本文理の選手に、観客の人たちも声援を送って球場全体が味方になっていました。負けた日本文理の選手が笑顔で、勝った中京大中京の選手が涙を流していました。負けて盛大な声援を受けて清々しい顔をしていた選手を今でも思い出します。

逆に最低の終わり方もあります。

最初から試合を投げ出している、負けてふてくされている、仲間のせいにしてベンチでけんかが始まっている、などです。何のためにやってきたのだろうと思います。

そんな中で、私が一番偉いのではないかと思っている生徒がいます。

それは、最後の大会でベンチに入れず、悔しい思いをしながらも、観客席で仲間を応援している高校の3年生です。よく途中で諦めず、腐らず、最後まで続けることができたなと感心します。

インタビューにも「仲間を応援します」とコメントをする生徒がいますが、心の奥では当然悔しいと思っているはずですよ。しかし、あえてそれを表に出さないところが偉いと思います。

人生は思うとおりににはなりません。しかし、どのようになろうとも全力を出して、腐らず、清々しく、前向きに生きる、そういう人を周りの人は必ず見ていてくれます。そして、何かあったときに応援してくれます。

「フェニックスマッチ」を今後の生き方につながる意味のある試合にしてほしいと思います。